

Y04a 芸術系宇宙科学広報について：「ギャラクシーラブ」開催報告

高木 俊暢, 阪本 成一 (宇宙航空研究開発機構), 加藤 慶 (アートラボはしもと)

相模原キャンパスのある相模原市は、橋本地区を囲むように多摩美術大学、東京造形大学、女子美術大学や桜美林大学・総合文化学群があり、多くの美大生が活動している。それらの美術系大学との連携でアートによる企画展示等の取り組みを行っている施設が「アートラボはしもと」である。今秋、この「アートラボはしもと」で、宇宙とアートの共同企画展「ギャラクシーラブ - 科学もアートも宇宙がスキ」を10月18日～11月25日の日程で開催したので、その結果を報告する。

宇宙科学研究所からは、人工衛星やロケットの組み立て風景を中心に、人が見える宇宙開発の歴史的なパネルや32点に及ぶ映像作品を提供した。これらを効果的に演出し、多くの美術作品と共に展示していただいた。

美術系の展示としては、女子美術大学日本画研究室による小惑星イトカワの分析データをもとに地球の鉱物を混成したイトカワカラーの作成や、隕石を顔料として描いた小作品の展示、「はやぶさ」からインスピレーションを受けた桜美林大学の学生有志による宇宙をテーマにした展示が行われた。また、JAXAが作成した指示書をもとに地元の県立弥栄高校などが自由な発想で衛星模型を制作した人工衛星のデザインコンクールも開催した。2014年に芸術衛星ARTSATの打ち上げを予定している多摩美術大学は、会期中に公開授業を行いながら、ミウラ折りや衛星の軌道データから着想を得た作品を学生がアートラボで制作した。

本講演では、「ギャラクシーラブ」の開催報告、および、その他の芸術系とのコラボレーション企画についても紹介する。